



# クイーン俱楽部だより 7月号

2013年

第127号

ERN  
エコライス新潟

有限会社工コ・ライス新潟  
新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100  
TEL 0258(66)0070 FAX 0258(66)0447  
URL <http://www.eco-rice.jp/>  
E-mail [eco-net@nekonet.ne.jp](mailto:eco-net@nekonet.ne.jp)



## 枝豆が食卓へ届くまで

- 1 早朝5時から始まる収穫作業。  
一番おいしい実の入りすぎる前の枝豆を株ごと引き抜く。
- 2 軽トラックに積み込んで、選別場所へ。
- 3 奥の機械で枝から実をもぎ、コンベアーで流れてきた枝豆を手作業で選別。



## 枝豆職人・笠原茂樹さんの

### 新潟の枝豆

### ご注文受け付け開始！



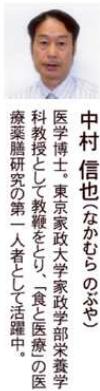
毎年恒例の笠原茂樹さんの枝豆が今期も登場！  
太陽と大地、笠原さんの愛情をたっぷり受けて育った枝豆を朝収穫し、その日のうちに発送します。毎年たくさんのご注文をいただいている人気商品ですので、ご予約はお早めに！

注文方法につきましては「ふるさと特産品・夏」をご覧ください



## ドクター中村の 健康徒然記 その29

生きがいは健康の元だ！



中村 信也 (なかむら のぶや)

医学博士。東京家政大学家政学部栄養学科教授として教鞭をとり、食と医療の医療研究の第一人者として活躍中。

平素より生きがいが最大の健康源といい続けて来ましたが、それを裏付けることがあります。  
ある五十歳代の男性が長引く病気に不安を感じ、がん専門を受診したところ、がんといわれ余命数ヶ月と宣告されました。医師に抗がん剤治療を言わされました。余命いくばくも無いと言われたのに、抗がん剤の意義を疑問視しました。どうのは、彼は抗がん剤治療して元気がなくなり死亡していった友人を知っていたのです。治療を断つたところ、主治医が急に冷たくなり、その後の診察だけでもほろろになってしましました。  
彼は私の主催する会にて時々出席していましたので、皆にお別れしたことを出席しました。そして、自分は末期がんである、後数ヶ月の命、次回の会には命尽きているかも知れないと別れの挨拶をしました。淡淡とした挨拶に私を含め全員がかなりの衝撃を受けました。

私は医師から見放された彼を救うには、生きがいしかないと思い、数日後に暇だったり、ホームページを作つて欲しい、山菜の会の面倒を見て欲しい、などと頼んだところ、一人でいるときが減入るといつて了解し、ボランティアするようになりました。

それが、靈験あらたか、顔色も良くなり、食欲が出るようになりました。何より、主治医よりもがんは縮小していないけど、綺麗になつてきたと不思議な顔で何か治療しているかと聞かれ、定期的に見せて欲しいと頼まれたそうです。

もう、死し宣告期間は過ぎたのですが、本人は元気です。病気を知つてゐる人、本当に末期がなんだと訝しげに聞かれるとき笑していました。彼は山菜のことを任せられているが、どうが病気に効くのか、と食べまくつているのだと苦勞話を話してくれます。あることに夢中になつたり、せめて後数ヶ月の命が欲しい、死んでいたらない、と生への強い執着心が出てきます。彼がもつと元気になり、永らえた会の広告塔になつてもらい、あちこちで講演してゆく、というのが私の生きがいでもあります。

中村先生著書  
やっぱり日本人は米だ!!  
- Dr中村お米を語る -  
好評発売中!